

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その1)

施策体系コード 3-2-3		事業名 地区センターバリアフリー化事業	
担当 市民まちづくり局地域振興部区政課 杉澤 TEL 211-2252			
全 体 計 画			
事 業 内 容	地域のコミュニティ活動の拠点である地区センターにおいて、高齢者や障がい者の社会参加の機会を拡充するため、エレベーター未設置の地区センターにエレベーターを設置する。		<年度別の事業内容> 20年度 藤野地区センター 21年度 ふしこ地区センター 22年度 新発寒地区センター
	平成19年度事業内容(決算)		平成20年度事業内容(決算) 高齢者・障がい者の社会参加の促進、地区センターの利便性を向上させるため、車いす対応エレベーターを1基設置する。 ・藤野地区センター(南区藤野2条7丁目)実施設計・工事(事業費:31,547千円)
事 業 内 容 ・ 量 ・ 場 所 ・ 規 模 ・ 件 数 等	平成21年度事業内容(決算) 高齢者・障がい者の社会参加の促進、地区センターの利便性を向上させるため、車いす対応エレベーターを1基設置する。 ・ふしこ地区センター(東区伏古11条3丁目)実施設計・工事 ・新発寒地区センター(手稲区新発寒5条4丁目)実施設計(上記事業費計:45,775千円)		平成22年度事業内容(決算) 高齢者・障がい者の社会参加の促進、地区センターの利便性を向上させるため、車いす対応エレベーターを1基設置する。 ・新発寒地区センター(手稲区新発寒5条4丁目)工事(事業費:58,326千円)

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	3-2-3		事業名	地区センターバリアフリー化事業		
達成目標の状況						
項目	18年度末 (現 状)	19年度末 (実 績)	20年度末 (実 績)	21年度末 (実 績)	22年度末 (実 績)	22年度末 (目 標)
エレベーター未設置の地区センター数	10カ所	10カ所	9カ所	8カ所	7カ所	7カ所
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)						
<p>■市民との連携、市民参加 工事期間中は閉館する必要があり、施設を利用される市民に工事に対する理解と協力を願った。</p> <p>■企業等との連携・協働 [資金協力] (該当なし) [人材協力] [情報協力] [その他の協力]</p> <p>■市民・企業等が参加しやすい環境づくり (該当なし)</p>						
評価(成果)			課題			
<p>利用者の理解を得て(閉館)、既設建築物の中にエレベーターを設置するという難工事であったが、今後は、利用される高齢者・障がい者が、2階を利用する場合に不自由無くセンターを利用していただけになった。</p>			<p>既設施設にエレベーターを設置することで構造的な制限もあるが、使用状況等を充分検討したうえで位置を決定していく必要がある。</p>			
今後の事業の予定・方向						
<p>23年度 (西野地区センター実施設計) 24年度 西野地区センター 25年度 厚別西地区センター、栄地区センター 26年度 星置地区センター、もいわ地区センター 27年度 新琴似・新川地区センター、西岡福住地区センター</p> <p>・当該事業を実施するにあたり、各居室(貸室)のバリアフリー化を併せて検討する。 ・当該事業に併せて、建築部で実施している計画修繕の建築物・設備等の改修を同時に実施できるよう調整を図る。</p>						

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

施策体系コード		3-2-3			事業名	地区センターバリアフリー化事業				
事業費の推移										
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計				
計画	事業費	0	46,700	53,600	46,700	147,000				
	財源内訳									
	国・道支出金	0	0	0	0	0				
	市の債	0	41,000	46,000	41,000	128,000				
予算	事業費	0	43,000	52,400	71,700	167,100				
	財源内訳									
	国・道支出金	0	0	0	0	0				
	市の債	0	0	0	50,000	50,000				
実績	事業費	0	31,547	45,775	58,326	135,648				
	財源内訳									
	国・道支出金	0	0	0	0	0				
	市の債	0	0	0	45,000	45,000				
事業費の進捗率		(H19実績+H20実績+H21実績+H22実績) / (計画事業費)					92.3%			
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)										
《全体》										
[19年度]										
[20年度]										
[21年度]										
[22年度]										
・前年度の設計の結果、当初予定していたよりも複雑な工事を要することとなったことから、計画額と比べ予算額が増額となっている。										